

西光寺だより

第一七二号 令和六年十二月一日発行

今年も残りひと月となりました。振り返ってみますと二〇二四年の元日は能登半島地震が起こり、思いもよらない辛い始まりとなりました。ご家族や親せきが集い和やかに新たな年を迎えていた方々もいらつしやつたと思います。もうすぐ一年が過ぎようとしている今も復興の最中で、今までと同じような日常を過ごすことの出来ない方もいらつしやることでしょうか。一年の始まりになぜ？という思いは未だ消せませんが、広く自然現象という点からみると不思議なことではなく、誰もが何が起きてもおかしくない現実の中で生きているのだと思います。そんな不安定な現実の中で、人は生まれ命終えていく存在だということをごまかすことなく心に刻んでおきたいのです。

十一月末で茨木東組内の報恩講参りが終了いたしました。

今年には十二カ寺の寺院の方が、西光寺報恩講にご出勤いただきました。コロナでなかなか会えなかったご住職方と顔を合わせますとあたりまえの時間ではなかったのだと、痛感させていただくことであります。浄土真宗におきまして最も大切な行事である報恩講。皆さんのご縁をつないで下さった親鸞聖人のご遺徳を偲びながら、一年を振り返り、改めていのちとご縁を大切にしていきたいと思うことであります。



◆先月の報告◆

十一月二三日（土）西光寺本堂にて報恩講法要を厳修致しました。

親鸞聖人とのご縁をいただいた法要を皆さんでお勤め致しました。多くの近隣のご住職様方に出勤いただき、奉讃大師作法の正信偈をお勤め致しました。

ご法話は、二回目のお出会いでありました永井了祥師にお話しいただきました。そのご法話で非常に印象深かったお話を二つ載せさせていただきます。

一つ目は、「仏さまはお浄土から来ておられるので、一緒について行くだけの安心の人生」というお話です。

たとえば、本願寺に初めて行く時に、地図やナビを駆使し、不安の中、無事にたどりつくことが出来るかわからない状態で行くのと、その本願寺から来てくださった方と共に行くとは安心感が雲泥の差であります。必ずつけるといふ安心の思いで本願寺に向かうことが出来ます。

行ったことのないお浄土への行き方を右往左往して、迷いながら、間違えながら進んでゆくのではなく、そのお浄土から来て下さっている仏さまと共に行くのが一番安心し、間違いなくお浄土へ行ける方法であります。仏さまの存在がともにあるからこそ無事に安心して、そして必ずお浄土へたどりつくことが出来る、大きな安心に包まれている人生が今であると聞かせていただきました。

二つ目は、広島の実宗学寮の高松悟峰和上の歌です。

「声に姿はなけれども

声のまんまが仏なり

仏は声のお六字と

姿を変えてわれに来る」

浄土真宗の本尊は「ナンマンダブ」です。声の仏さまですから目に見えませんが、お寺の本堂やお仏壇に安置された仏さまのお姿は、ご本尊の「ナンマンダブ」を目に見える形にした方便法身の尊形といわれる所以であります。

私をお浄土に連れてゆくのは「ナンマンダブ」です。耳に聞こえるままが私を救う仏さまです。

往生成仏の証拠が届いているのですから、いまさらお願いは必要ありません。「ありがとうございます」とおまかせする私の返事が「ナンマンダブ」のお念仏です。

非常に印象深かったので載せさせていただきました。

西光寺の報恩講や永代経にはさまざまな布教使の方が来られます。そのどれもがそれぞれに感じられた浄土真宗とのご縁であります。

多くのお話を聞かせていただき、それぞれ皆さんの人生のお役にたてればと感じたことであります。

今年も最後であります、これからもどうぞよろしくお願い申し上げます。皆様におかれましてもお身体にご留意頂きながら良いお年をお迎えください。今年一年本当ありがとうございます。合掌



◆十二月・一月の行事◆

・十二月 三二 日(火)

除夜の鐘

午後十一時五〇分〜

西光寺鐘楼

・一月 一日(水)

元旦会法要

午前十時〜

西光寺本堂